

## ■ 檜葉町役場訪問とモニタリング作業の報告

3月25日、塩谷亘弘理事長代行及び家森監事が檜葉町役場（いわき市）を訪問し、放射線対策課の青木課長並びに松本課長補佐と面談しました。

今回の面談の目的は、①すでに「覚書」を交わしている川内村における住宅内のモニタリング作業活動について説明し、②檜葉町との間で住民家屋内のモニタリング作業活動に係る「覚書」を交わすための折衝を行うことです。

折衝の結果、来る5月10日に檜葉町役場を再度訪問して、「覚書」に関して松本町長と交渉することが確定しました。「SVCF通信」次号にて、折衝の詳細結果をご案内します。

面談後、檜葉町へ向かい、いわき市に避難している住民の方から依頼のあった住宅内（J-Village近く）

のモニタリング作業を行いました。このモニタリング作業はいわき市在住の行動隊員である伊藤（勝）氏が加わり、塩谷、家森の3名にて実施しました。

この地区では上下水道がまだ復旧途上であり、一時帰宅して屋内の清掃をする住民の方々はポリタンクに水を入れて持参しています。皆さん苦勞して帰還の準備をしています。

この辺りは国直轄の除染事業がこれから始まる地域であり、今回、除染前に私たちが計測した測定値は除染の効果を知る上で貴重なデータになるでしょう。

翌日、家森監事は、いわき市から富岡町経由で川内村に入るルートを視察しました。

富岡町は3月25日避難区域見直しにより三つの区域（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域）に区分けされることとなり、帰還困難区域以外は自由に立ち入ることが可能となりました。

国道6号線を北上すると帰還困難区域の入口となり、車両は止められます。これ以上は進入禁止です。

今回の視察で、川内村へのルートは帰還困難区域を通らずに通行できることが分かりました。今後、川内村での作業にあたっては、このルートを利用することになります。

帰路、家森氏は最近通行可能になった富岡町から川内村に入るルートを視察しました。富岡町内の6号線沿



檜葉町の職員に、川内村の計測結果について説明する塩谷理事長代行



いの道端で地表面を計測したところ線量率は20 $\mu$ Sv/hと高い値を示しました。

## ■ 請願署名を徳永エリ議員に手渡しました

昨年10月から本年3月まで、福島原発行動隊は福島第一原発における事故収束に関する請願署名活動を進めてきました。お寄せいただいた署名は3,620筆にのぼり、全国各地の皆様からの熱い思いを受け取ることができました。

4月8日、塩谷亘弘理事長代行、佐々木和子副理事長、伊藤行夫理事、岡本達思行動隊員の4名が民主党の徳永エリ参議院議員の事務所を訪問して署名簿を手渡し、平田健二参議院議長への提出をお願いしました。

福島第一原発事故

の収束については、ここにきて政権与党の自民党内部でも一部議員から国家プロジェクトの必要性について声が上がりに始めています。今後、関連する国会委員会等での審議にあたってこの署名が影響を与えていくことを期待しています。

ご協力いただいた全国各地の皆様には、ここにあらためてお礼を申し上げますとともに、私たちの願いを実現するため引き続きご支援をお願いいたします。



徳永エリ参議院議員（中央）に署名簿を手渡す塩谷理事長代行（左）と佐々木副理事長（右）

## ■ 東電の原子力改革監視委員会へ要請

2013年3月13日に「東電との継続的話し合い」の一環として東電本店を訪問した際に、担当者に取り次いでいただいて「福島第一原発視察に係る指導、監督について（お願い）」を東電の原子力改革監視委員会（以下監視委員会）に提出しました。

この申し入れの趣旨は、福島原発行動隊の第一原発視察の要望を東電が拒否してきたことに対して、東電の組織運営の公開性・透明性の点から監視委員会より東電に対して「行動隊の第一原発視察の要望を受け入れるように」指導して欲しいというものです。

これに対して4月9日に監視委員会から「行動隊の希望に沿うことは適当ではない」と考えるという回答を郵便で受け取りました。拒否回答の理由として監視委員会は2点挙げています。

1点は「原子力発電所の解体撤去作業は、作業安全を確保するために統制のとれた体制の下で行われる必要

がある」というものです。またもう1点は「福島第一原発の廃炉作業の事業者選定は監視委員会の監視監督対象ではないので、行動隊の第一原発視察の要望を東京電力に指導することは適当ではない」でした。

このように、この回答は今回の申し入れの趣旨、東電の組織運営の公開性・透明性については何も答えずに、行動隊の主張の根幹に対して「これを東電が受け入れない」のは妥当であるというものです。

この観点からは、理由の1の「解体作業は統制のとれた体制の下で行われる必要がある」というものをどのように解釈するかが行動隊の今後の活動方針にとって重要と思います。

なお行動隊のお願い文書及び監視委員会の回答文書の全文は行動隊ウェブサイトでご覧いただけます。  
(伊藤邦夫記)

### ■東電との協議メモをアップロードしました

SVCF通信の前号において、ウォッチャー・チームが東電と滞留水問題について協議したことをお知らせしましたが、その協議メモを福島原発行動隊のウェブサイトへアップロードしました。

### ■原発事故関連資料紹介のページを作成しました

このたび、モニタリング・チームが中心となって、福島第一原発事故関連の図書・資料の紹介ページを立ち上げました。

このページは、公益社団法人福島原発行動隊の活動

の一環として、原発事故や放射線、放射性物質について説明した書籍、PDF文書などの資料を集めたものです。学習会の教材などとして利用される際の参考として、ご活用ください。

### ■「東海グループのつどい」を開催しました

4月19日（金）、名古屋市の愛知県青年会館において、東海グループ（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県在住者）のつどいを開催し、25名の行動隊員、賛助会員などが参加しました。

この日の集いではまず杉山隆保氏が福島原発行動隊の現状について話し、続いて、福島中央テレビが制作した特別番組「シニアからのメッセージーシルバー行動隊の思いー」のDVDを上映しました。

参加者からは活発な発言がありました。「チームを組んで廃炉に取り組む訓練をしなければ本番では役に立たない」、「放射線のことは良く分からない」、「放射線量の高い所から子どもを避難させる取り組みを行っている」、「福島原発の鉄を製鉄した。どうなっているのか見たい」、「行動隊員の力量を把握しているのか」など発言は多岐にわたりました。



### ■主要な活動報告（2012/12-2013/4）

活動	日付	場所
天山ツアー	12/1	福島県川内村
モニタリング	12/19-20, 2/6, 4/24	福島県川内村、楢葉町、富岡町
中長期ロードマップに関するセミナー参加	12/20	福島市コラッセふくしま
東電福島第二原発を視察	1/16	東京電力福島第二原子力発電所
除染フォーラム参加	2/17	福島県いわき市
街頭署名活動	12/7, 9, 11, 15	東京都池袋駅、新橋駅など
徳永エリ参議院議員に署名を手渡す	4/8	参議院議員会館
楢葉町仮設出張所訪問	3/25	福島県いわき市
地域集会	12/2, 2/13, 4/19	福岡、広島、横浜、名古屋
理事会	12/13	滝野川事務所
社員総会	12/13	滝野川事務所
院内集会	2/7	参議院議員会館
事務局連絡会	1/11, 18, 25, 2/1, 8, 15, 22, 3/1, 8, 15, 22 4/5, 12, 19, 26	滝野川事務所
SVCF方針検討会議	2/11	滝野川事務所
安全衛生委員会会議	1/19	滝野川事務所
教材プロジェクト会議	12/16	滝野川事務所
原発ウォッチャー会議	1/15, 2/13, 4/10	滝野川事務所
財政拡大チーム会議	2/4	滝野川事務所

### ■原発ウォッチャー報告（2013年3月分）

項目	東電HP記載概要	所見
原子炉・燃料プール	原子炉及び燃料プールは安定的に冷却されている。共用プールに燃料受入れ容量確保のため、乾式キャスクへの移動の安全性確認	燃料プール用電源トラブルについては触れていない
滞留水	3/19現在、設置済みタンク容量32.5万 <sup>m</sup> （空き5.5万 <sup>m</sup> ）。H25上期中に45万 <sup>m</sup> 、将来的には70万 <sup>m</sup> に 地下水バイパス、多核種除去装置(ALPS)は試験運転にALPS処理水：H27上期末50万 <sup>m</sup>	4月に発生した地下貯水槽の水漏れにより大幅な計画変更か。近い将来ALPS処理水を系外排出するアピールが強まることと予測
燃料デブリ取出し	格納容器の漏洩箇所を遠隔操作ロボットで調査中 建屋除染装置について手段・操作法など数種開発中	R&Dとして検討は進んでいると思われるがHP上の記述はない
瓦礫の処理	敷地境界1mSv/y達成に向けて、瓦礫の構内中央部への移動、遮蔽処置など外部への影響軽減対策実施中	住民帰還の条件としての1mSv/yの現実性に疑問が呈され始めている